

## 第2回「(仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会 議事録

1 日時 令和6年5月9日(木) 午後3:00~午後4:30

2 場所 ライトキューブ宇都宮 2階 大会議室201

### 3 出席委員

#### 学識経験者

森本 章倫 会長 長田 哲平 副会長 中井 祐 委員

#### 関係団体

市村 耕三 委員 坂本 守弥 委員 近野 泰 委員 庄司 元康 委員

村上 龍也 委員 栗原 伸一 委員 増田 良二 委員 宮前 俊哉 委員

小関 裕之 委員 鈴木 孝弘 委員

#### 交通事業者

伊藤 滋 委員 吉田 元 委員 中尾 正俊 委員

#### 行政機関

亀山 泰剛 氏(石崎 浩 委員代理) 坂入 芳昭 氏(日原 順 委員代理)

村上 晃規 氏(若林 勝也 委員代理)

#### 事務局

都市整備部 野澤次長

都市整備部 市街地整備課 上田課長 山崎課長補佐 安田係長 手塚総括

高山技師 萩原主事

### 4 会議経過

(1) 開会

(2) あいさつ

森本会長

JR宇都宮駅西口は、本市のNCC形成に向けて大変重要な位置づけである場所となりますので、昨年12月に開催した第1回懇談会では、公共の空間と民間の空間をあわせて、未来のあるべき姿について議論し、皆様から大変貴重なご意見をいただきました。

本日は、第2回の懇談会となりますが、「人中心の駅まち空間」というキーワードが出てきております。歩行者の視点から西口周辺地区をどのように回遊するのか、あるいは景観上どのような状態にするべきか、一方で、交通結節点の視点からは、多様な交通機能の動線をどうするべきか、その両者の視点から見てどういった未来を描くのかということについて、皆さまから貴重なご意見をいただきたいと思います。重要な課題となりますので、限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

(3) 会議の公開について

本会議は公開として決定

(4) 「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」について

事務局から資料1に基づき説明

森本会長	<p>ありがとうございました。 それでは、皆様よりご質問やご意見を伺いたいと思います。</p>
中尾委員	<p>まだ具体的な整備方針が出ておりませんので、将来の姿がどのようになるのかははっきりとしない点がありますが、駅西口の機能配置については、車や人の流れを阻害しないよう、1階、2階におけるバス・タクシー・一般車・ライトラインや歩行者などの動線を考えることでスムーズな空間になってくると思います。そういった機能配置について、市の考えをお伺いしたいです。</p>
事務局	<p>P16～17のような自動車動線・歩行者動線の考え方については、今後駅前広場の整備を具体的に検討していく上で、最も基本的な土台となる部分だと考えております。</p> <p>今回の議論を踏まえた上で、人中心の空間にふさわしい自動車や歩行者の動線について、1階部分と2階部分をあわせて総合的に検討していきたいと考えております。</p>
中尾委員	<p>今回の一番の特徴は、東西自由通路の軸を中心として、東側と西側の繋がりを強化していく点だと感じておりますが、東西間の人の流れを含め、各交通機関を利用する人の想定量は計算しておりますでしょうか。利用者の想定量を考えた上で交通機能の規模・配置を検討していかないと、どこかでまた渋滞が起きることが想定されますので、そういったまちづくりの基本となる想定量の計算を行って是非説明していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>東西軸を強化していく考え方については、軸を中心に「にぎわいと憩いの空間」の創出や、ライトラインの停留場の配置なども含め、バス・タクシー・ライトライン・鉄道といった交通機能が共存できるような空間を実現していくことを考えております。</p> <p>利用者の想定量については、今後、公共交通の再編を踏まえた需要予測の検討などと連携しながら、交通機能の規模・配置の考え方をご説明できるよう検討してまいります。</p>
中尾委員	<p>一番大事な部分となりますので、よろしく願いいたします。</p>

森本会長

本日は、第1回の議論を受け、広い範囲でのまちづくりとして、この西口周辺地区をどのように考えるかを議論しつつ、P10のような4つの軸を中心とした空間を考えていく視点が新しい内容の1つとなっております。まずはこの考え方でよろしいかという点を1つの大きな方針としてご議論いただきたいと思います。

そして次に、P15以降にある時間軸での空間の考え方でございます。ライトラインの西側導入時期である約10年後に、どこまで西口のまちづくりが実現できるのか、そしてさらに先の将来を見据えて望ましいまちをつくらうとしたときに、周辺の民有地における土地利用とどのように連携すればより良く発展していくのかという議論が必要になります。

このあたりが固まると、中尾委員よりお話があった交通機能の規模や配置を詰めていく内容に入っていくと思いますが、今はその手前のコンセプトのような大きな内容であり、少し歯がゆい感じもございますが、本日の内容を総論としてご議論いただきたいと思います。

中井委員

この4つの軸というのは、具体的にどのような空間をイメージしているのでしょうか。軸を交通動線と言い換えても変わらないように感じるのです。交通動線のようなイメージなのか、若しくは、まちづくりにおいて強いコンセプトを持って軸という言葉を使っているのか、その辺りをご説明いただけますでしょうか。

事務局

基本的には、人中心の空間を創出するという考えのもと、人の歩く空間などをイメージしております。具体的には、沿道の機能、景観や緑化、セットバックなどの手法を含めてどのように空間を創っていくのか、また、荷捌きや駐車場など、車の取り扱いについても軸ごと・テーマごとに盛り込んでいきたいと考えているところでございます。

中井委員

P10については、4つの軸を束ねる「駅まち空間」をどのような場所にするべきか、というイメージの共有がとても大事だと思います。軸を設定しても目的がないと人は歩かないので、散歩のため、鉄道利用のため、デートのためなど、そういう異なる目的を持った人たちがこの「駅まち空間」で混ざり合うことで、そこに活気が生まれると思います。軸をつくるのが目的とならないよう、今後、是非人々の活動を意識した議論を展開していただけたらと感じております。

森本会長

中井委員より大変重要なお意見をいただきました。

本日の資料における軸は、交通動線の色が強く出ておりますが、文化や商業といった土地利用の要素も軸にはあると思います。軸周辺をどのような空間とするのか、という視点でもう一步検討していかないと、軸が単

なる交通動線だけに見えてしまうのが今の課題だと認識いたしました。

鈴木委員

4つの軸に関しては、行き先によって異なる特徴を持ったまちづくりのイメージということで、本日の説明の中で理解が進んだと思います。

一方で、駅まち空間の考え方については、P10の記載において、少し機能的な部分に寄ったような表現になっていることや、P15以降で整備の時間軸、動線の話、4つの軸への起点という表現などがありましたが、動線だけではなく、景観の部分をどのようにしていくのか、何を大事にしていくのかという視点について、次回以降、全体の方針の中で整理されると良いと感じました。

事務局

軸の形成を進める上で、街区ごとに多様なまちの機能の誘導の考え方や良好な景観形成などの視点について、整備の方針として、計画に盛り込んでいきたいと考えております。

鈴木委員

駅前広場の再編や周辺の街区開発など、様々な制約がありますので、今は決めきらない部分もあると思います。ただ、その中でも譲れないものについては、方針レベルでしっかり整理していくことがポイントだと思います。

増田委員

駅西口地域の整備の方向性については、これで良いと思いますが、宇都宮は駅を挟んで東と西に分かれていると感じますので、何とか駅東西をより強く結ぶ方策を講じていただきたいと思います。現在の歩行者動線は自由通路のみであり、東側のライトラインに乗車する場合、西口の人には自由通路を歩いて行くしかありません。30年先を見通した長期計画の中では、東西間でにぎわいを持たせるために西口で東西の結びつきを強化していく方策を何とか考えていただきたいと思っております。

森本会長

駅東西のつながりの強化という視点は、とても重要なことだと思います。P10を見ていただければと思うのですが、大通り軸については、将来的に人と公共交通の軸にしたいというのが、大きな考えであると思います。そこで大通り軸から東西軸へと人の流れを繋げたときに、今のままではまだ、人の軸としては弱いのではないだろうかと感じました。人がもっと頻繁に東西を移動できるような空間を将来的に整備しながら、ライトラインは駅の北側を通るような、東西間のイメージの部分を皆さんと共有できれば良いなと思っております。

事務局

まさに東側が今、まち開きもあつたということで、かなり盛り上がっている中ではありますが、西側も今後、県都の玄関口にふさわしい宇都宮の顔として再編していきたいと考えております。そうした際には東西が互い

に、にぎわいなどを享受し合うような関係性が重要となるため、東西軸において、より一層のつながりが強化するような方策を検討していきたいと考えております。

近野委員

人の議論に要素を少し追加したいと思いますが、2050年代の日本の人口は約9500万人に減ってしまう。年齢構成では、75歳以上が全人口の4人に1人、そのぐらい若い世代、労働人口が減ってしまいます。そうすると駅とその周辺を含む空間は、より一層のバリアフリー化が重要となります。4つの軸を軽やかに移動していくという空間の中に人の移動を加えていく際には、障がい者、高齢者に対するバリアフリーを加味した空間設計という話が必要になってくると思います。

また、1人世帯が、2050年で約45パーセント、人口の約半分が1人暮らしになるという数値が出ております。1人世帯のライフスタイルを考えた上でも、駅に来れば人も多く、何か楽しさがあるという期待感をつくり出すなど、駅西口周辺に訪れる目的や人の動きについて議論が活発化すると良いと思いました。

事務局

現在、宇都宮駅には多くの人が行き交っていると感じておりますが、それは鉄道やバスなど、交通を目的とした人が多くを占めているかと思われれます。今後、「駅まち空間」を創る際は、その空間に何を求めていくのか、人を呼び込む仕掛けとは何か、こうした視点の重要性を再認識しました。交通のための目的地としてだけではなく、人が集まるための目的地にもなるように、将来の人口構造の変化などを踏まえた上で、次世代モビリティやバリアフリーなど、様々な視点から検討する必要があると考えております。

中尾委員

軸をつくるというのは非常に大事なことで、その中でも基幹軸を信頼できるものにしていくことが、まちや都市をつくる上で非常に重要なことだと思います。宇都宮の公共交通の大部分はバスが担っている状態で、大通りについては1日に2000台規模のバスが行き交っており、その中でも、朝夕のラッシュでは、駅前広場構内の横断歩道での一時停止により渋滞が生じています。また、駅前広場の北側には、一般車駐車場が2つ3つ固まっておりますが、入庫待ちが原因で渋滞が生じるといった状況もあります。

そのような現状を理解した上で、軸に交差が生じないようにしていく必要があると思います。そこで私が最初に申し上げました、1階と2階の役割を組み立てて、お互いに交通の円滑化につながる具体的な運用ができる案を検討して欲しいと思っております。

森本会長

今、中尾委員からありましたのは、やはり3次元で考えてほしいという

ことですね。これは当然でございます。景観的な議論を含め、次回以降は、3次元として捉えたときにどうなるのか、課題を認識しながら徐々に明らかにしていっていただきたいと思っております。

村上委員

宇都宮の都心部における西口の位置づけが見えてきた点は、一つ前向きに思えたところです。東西自由通路の延長上にある東西軸が田川までつながり、田川の活用に結びつくという考えは、地元からのリクエストとして非常に大きく上がっております。この空間の活用や運用によって、駅前の賑わいの創出というところが出てくると思っております。昔のようにハード面を整備すれば、あるいは箱物をつくれれば出来上がるということではなく、これからは運用や活用を考えていくべきということで、今後も地元や行政の方々といろんな意見交換を進めていきたいと思っております。

事務局

今回の懇談会で、4つの軸の空間や機能の内容に加えて、人の活動がイメージできるような内容を盛り込んでいく必要があると認識いたしましたので、引き続き関係者の皆様とそうした視点も含めて意見交換をさせていただきたいと思っております。

中井委員

自動車動線と歩行者動線を分離していく一方で、バスやライトラインなど、公共交通利用者や歩行者といった、目的は異なっても「人のための公共空間」は一緒にするべきだと考えております。これについては、各関係者で協力的に知恵を出し合っていく必要があり、非常に重要な論点になると思っております。

そして、西口にある田川の活かし方については、1つのポイントになると思っております。田川を活かしながら様々な交通モードの利用者と共有できる多目的スペースをどのようにつくるか、という議論を今後深めていければ良いと感じております。

森本会長

ありがとうございます。大変重要なご指摘をいただきました。

P15については、現在の駅前が交通空間が大半という中で、東西軸を中心に公共空間を出来るだけ広げて田川まで繋げていきたいという、非常に大きな主張であり、この内容が合意出来るのであれば、空間の実現に向けて、様々な機関が連携して検討していくことになるかと思っております。検討の際には、当然交通渋滞が激しくなってはいけませんし、3次元空間で考えたときに、景観としても誇れるようなまちにしたいと思っております。そういった検討を今後進めていくために、まずは本日の資料にある空間の考え方について合意が取れると、これを基にした3次元での絵が次回以降出てくるのではないかと考えております。

伊藤委員

駅舎の前にも人のための滞留空間がつながっているのです、そうした空間をどう創出していくのか一緒に議論できればと思います。

また、今後弊社の施設の活用方法を変える機会が出てきた際は、西口の将来像を見据えながら変えていかなければならないと考えております。

吉田委員

滞留空間が出来るということは、非常に良いことだと思いますし、鉄道やライトライン、バス、タクシーを利用する際、滞留空間を中心に人の流れが分散していくのが良いと思っております。

また、先程中尾委員がおっしゃったように、早く3次元で空間の使い方を考えることが重要だと思います。「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」の中で、過去にライトラインの地上・高架の議論がありましたが、その際にも公共交通が平面交差することについて、交通事業者としては非常に重要な課題だと認識しておりました。そうしたことから、やはり3次元で考えていくということが必要ではないかと思っております。

庄司委員

全体の話をお聞きした中で、軸の話が概念なのか、動線なのかという点では非常に頭の整理がついたところではあります。本日の内容の方向性には何ら異論はないですし、平面的に歩行者動線・自動車動線が交差しない、交通弱者にも優しいまちをつくるというのは、今後の次世代モビリティを考えた上でも非常に良い考え方だと思います。

また、駅前の渋滞問題は、身をもって感じていることですので、そこについては改善し、近野委員よりお話があったように、今後の超高齢社会に対応したインフラの整備をしていく必要があると思います。

東西軸の重要さというのは私も感じておりますが、ここには当然権利を持っている方々もいらっしゃるのです、例えば1階、2階には建物があり、屋上を緑化空間にする、といったパターンもあると思いますので、具体的な絵が見えてくると、次の議論に進みやすいと思います。

森本会長

是非絵を見たいところですが、一方で、実際に土地や建物をお持ちの方にとっては自分の土地で知らない絵が出てくることに対して違和感を持たれる方も当然いらっしゃいます。そういった意味では、少しもどかしさはあると思いますが、コンセプトを決めながら、次回以降3次元での空間を議論していけたらと思います。小さくまとまってしまうとあまり良いものが出来ないのです、トライアンドエラーだとご理解いただけるのであれば、複数案を出しつつ、それをベースにしながら前向きに議論していこうという雰囲気になれば良いなと思っております。

本日の内容に異論がありましたら、引き続き平面的な議論を続けていきたいと思いますが、次回以降は、3次元的な議論をさせていただいてもよろしいでしょうか。

村上委員

東西軸の延長線上で田川まで繋がる賑わい空間の創出については、地元でも実現に向けて是非チャレンジしていただきたいという声が挙がっております。

一方で、庄司委員からあったように、自分の土地がどうなるのかというのは別の話になりますので、もし今後絵を出していただくのであれば、1つのパターンではなく、複数パターンを出していただくと大変理解しやすくなると思います。

3次元での空間活用について考えることは非常に大事な視点だと思いますが、例えば、大通り軸がライトラインと人の空間になり、北軸が一般車とタクシー、南軸がバスといった考え方もあると思いますので、あまり条件を決めつけずに様々な案を出していただくと良いと思います。

中尾委員

これはお願いになりますが、P15にある時間軸について、約30年後というのはとても長く、約30年後までこの事業を継続して実行まで持っていくのは、至難の技だと思いますので、ある程度のテンポ感を持って整備を進めていただきたいと考えております。

本日の内容で良かった点は、西口周辺地区と田川を結ぶような空間づくりを検討している点であり、フランスのセーヌ川のように、河畔にあるビルの2階から河岸のボートを眺めたりできるような空間を宇都宮でも創り上げてほしいと思います。

従来宇都宮のイメージでは人は呼べないので、あっと言わせる仕掛けを持ったまちづくりをしていただけたらと思います。

坂入氏  
(日原委員代理)

皆様の意見で駅前をより良い空間にしていくということは非常に大切なことだと思います。田川は景観の視点など様々な可能性がある一方、近年頻発する災害や防災の視点も踏まえて、この地区のより良い案を考えていければと思います。

森本会長

防災の視点は大変重要でございますので、防災を考えながら、安全安心な河川整備で楽しい空間ができると良いと思います。

長田副会長

本日はP16のような交通空間を分けていく話と、にぎわいと憩いの空間を上手く活用していく話について、皆様と共通認識を図れたのではないかと考えております。

時間軸としては、約30年後を目指して動いていくということについて、皆様と一定合意がとれたと思いますので、今回の考えをベースに3次元でのイメージを複数案つくることで、次回以降はさらに活発な議論ができるのではないかと考えております。

小関委員	<p>本日皆様からのご意見の中にもありましたが、やはり具体的な3次元の絵を見せていただくと、将来的な西口のイメージが非常にわかりやすいと思います。これからの時代、物販はなかなか厳しくなってくる一方で、人が集まるという観点では、飲食やサービス関係の機能が益々増えていくのではないかと感じております。</p> <p>そして駅前という点では、居住機能、あるいはオフィス機能なども考えられると思いますので、3次元になったときに、高さや空間の使い方などのイメージも見えてくると良いと思います。</p>
事務局	<p>小関委員からご意見をいただきましたとおり、こういった機能を入れることでより良いにぎわいを創ることができるのかという点や、それを3次元で見たときにどのような動線をつくっていくのかという点は、非常に重要な話になりますので、次回以降の懇談会では、3次元での空間イメージを複数案出しながら、一緒に検討していけたらと考えております。</p>
中井委員	<p>宇都宮のまちは、中世・近世・近代と歴史が重なっており、非常に面白い構造をしているのですが、そういった歴史の話が出てこなかった点が気になりました。西口周辺地区は中心市街地からは外れた場所にありますが、近代的な新しい時代の風は西口から中心市街地に向かって吹いていくものだと思いますので、宇都宮の未来はここから創っていくんだという青臭い理想像のようなものを持って議論をしないと、盛り上がらないのではないかと感じております。</p> <p>障がい者や子育て世代など、あらゆる人にとって受け入れられるまちづくりを西口からしていくのは非常に良いと思いますので、このまちの歴史を上手く活かしたまちづくりになるよう動かしていただきたいと感じております。</p>
事務局	<p>中井委員のご意見のとおり、宇都宮の歴史がつくりあげてきた都市構造は重要な視点でありますので、本計画を策定していく中で、歴史とつながりのあるまちづくりについて整理していきたいと感じます。</p>
宮前委員	<p>本日の内容については、皆様から出たご意見に賛同できると感じております。気になる部分としては、駅まち空間や4つの軸の役割が一体どのようなものになるのかという点です。</p> <p>社会福祉協議会の立場から申し上げますと、地域共生社会の視点から、この駅まち空間や4つの軸についても、令和6年4月に改正法が施行された「障害者差別解消法」を踏まえたバリアフリーの整った空間となるよう、機能性・利便性についても考慮に入れてもらえると非常にありがたいと感じております。</p>

事務局	<p>今回目指す西口のまちづくりにおいて、インクルーシブな社会というのは1つの大きなテーマでもあります。インクルーシブな社会を考えるにあたって、バリアフリーは主軸になる課題だと認識しておりますので、関係する法令等を踏まえて施設の在り方について検討してまいります。</p>
森本会長	<p>ありがとうございます。それでは委員の皆様からの意見も出尽くしたようなので、本日のまとめに入らせていただきます。</p> <p>西口周辺地区の将来像を具現化していくためには、順次検討のステップを踏んでいくことが重要だと思います。関係者の方々との対話を大切に、出来るだけご意見を反映させながら、次回の懇談会に繋げていただければと思っております。</p> <p>以上で本日の議事は終了いたします。</p>

(5) その他

(6) 閉会